関東大震災から100年「神奈川県の土砂災害の歴史」

株式会社 防災地理調査　今村隆正

１．はじめに

本発表は，今年令和５年（2023）に災害発生から100年となる関東大震災において最も土砂災害被害の大きかった神奈川県について，これまでの調査成果を発表するものである．

神奈川県は，関東平野の南西部に位置する，東西約78km，南北約60km，面積約2,416㎢の県である。面積は全47都道府県の中で５番目に小さい．地形は，西部は丹沢と箱根火山の山地，東部は多摩丘陵から三浦半島へ続く丘陵地，その中間部は相模川が形成する広大な平野の三地域に大きく区分される．地質は，北西部には古い付加体，その南に丹沢山地と箱根火山，東部の丘陵や台地は関東ローム層に厚く覆われ，その中間には相模川や酒匂川の沖積層が広がっている．気候は，黒潮の影響を受け温暖湿潤な太平洋側気候である．

２．大正関東地震と「関東大震災」

神奈川県に被害を及ぼした歴史地震は，元禄地震（1703），大正関東地震（1923）をはじめ多数の被害地震があるが，その中でも激甚な被害を発生させた地震は大正関東地震（1923）である．

大正関東地震は，大正12年（1923）９月１日午前11時48分に発生したマグニチュード7.9の，神奈川県の広い範囲で震度Ⅵ以上となった地震である．人的被害は，横浜市などの市街地火災によるものが最大であるが，土砂災害による死者も神奈川県域で500人以上あった．大正関東地震による災害を「関東大震災」という．

３．神奈川県における歴史時代の主な土砂災害

表１に，神奈川県域における歴史時代の主な土砂災害事例を示した．また，図１は表１の丸番号に対応した位置図である．大正関東地震を誘因とした事例が突出して多いことが分かる．

表１　神奈川県の主な土砂災害年表

発生年月日	誘因	発生地点	土砂災害概要	位置
1703.12.31 元禄十六年 十一月二十三日	元禄地震 (M7.9～8.2)	山北町 皆瀬川	皆瀬川村は斜面に点在する山間集落であり，山崩れにより集落全体が甚大な被害を受け，58軒の家屋が倒壊，流失あるいは埋没した．	①
		南足柄市 矢倉沢	地震で崩壊していた山中の土砂が，約3箇月後の豪雨により土石流となり，下流の矢倉沢村では3人が犠牲となり家屋も損壊し多くの田畑も流失した．	②
1923 大正12年9月1日	大正関東地震 (M7.9)	横浜市 山手崖	元町や石川町は山手崖の下に密集した商店や住家であり，背後の崖が至るところで崩れ家屋は埋没し，火災とともに多くの犠牲者を出した．	③
		横浜市 磯子	現在の磯子区役所から国道16号を隔てた斜面が大規模に崩れ，斜面下にあった料亭「偕楽園」の建物の一部や近隣の家が埋没した．	④
		横須賀市 見晴山	見晴山の崩壊は，横須賀駅から続く道路と海軍工廠構内の需品庫の一部及び通行人50人以上を埋没させた．	⑤
		横須賀市 愛宕山	浦賀町蛇畑では，背後にある愛宕山の斜面が大きく山崩れし，斜面直下の人家74戸とその住民100人以上を埋没させた．	⑥
		相模原市 鳥屋	鳥屋村馬石では集落背後の山が崩れ，人家7戸を埋没し16人が犠牲になった．土砂堆積地は「地震峠」と名づけられ，災害伝承として語り継がれている．	⑦
		愛川町 馬渡	馬渡では，人家背後の崖崩れにより5戸が埋没し17人が生き埋めとなり，2人は救助され15人が犠牲となった．	⑧
		伊勢原市 大山	地震から2週間後の9月15日の暴風雨を誘因として発生した土石流により，人家170棟以上が損壊したが，避難行動により犠牲者は1人であった．	⑨
		箱根町 底倉	箱根各地で山崩れが多発したが，中でも宮ノ下から底倉温泉付近は特に被害が多く，斜面中腹などに建っていた旅館が渓谷へ墜落し犠牲者も多かった．	⑩
		小田原市 米神	米神では，地震動による家屋損壊の被害もあったが，人的被害の多くは山津波によるものであり，62人が犠牲になった．	⑪
		小田原市 根府川	根府川駅背後の斜面が大きく地すべりし，根府川駅舎とホーム，停車寸前の下り列車が海中へ押し出され，約130人が犠牲となった．	⑫
		小田原市 白糸川	白糸川の河口から約4km上流の大洞山が大きく崩れ，崩壊土砂は山津波となって流下し，根府川集落の約250人が犠牲となった．	⑬
1930 昭和5年11月26日	豆相地震 (M7.3)	箱根町 大明神川	大明神川の源流部付近の斜面が崩れ土石流となって流下し，河口付近の萬福寺を埋没させ留守番をしていた檀家の一人が寺院とともに犠牲になった．	⑭
		箱根町 むじなの窪	芦ノ湖西岸の斜面が一気に崩れ土石流となって流下し，御料局の造林作業に従事するために静岡県から来ていた作業員8人が犠牲となった．	⑮
1933 昭和33年9月26日	降雨	横浜市 南太田ほか	台風22号（狩野川台風）の降雨を誘因として住宅密集地背後の崖崩れが多発し，県内の犠牲者93人のうち61人が横浜市の崖崩れによるものであった．	⑯

図１　神奈川県の主な土砂災害発生位置図
（地理院地図に加筆）

４．神奈川県の土砂災害の歴史と特徴

歴史記録に残る大規模な土砂災害は，丹沢山地や箱根火山等の西部山岳地帯で発生することがほとんどであるが，東部丘陵の末端部において，大正関東地震（1923）や昭和 33 年（1958）の狩野川台風の際にも見られたように，崖崩れによる土砂災害も無視できない．規模は小規模であっても，崖下には人家が過密しているため，山中で起こる大規模な山崩れ以上の被害を発生させる場合が多い．

神奈川県には関東大震災に関する慰霊碑や記念碑が各地に建立されている．写真１は，藤沢市の鼻黒稲荷大明神境内にある慰霊碑である．「嗚呼九月一日」の一言がこの災害の大きさを物語っている．そして，関東大震災の災害記録は，写真や文献として今もまだ各分野の専門家が調べ尽くせていない程の記録が残されている．我々の使命は，先人が残してくれた記録を最大限に活用し，過去の災害の事実をしっかり理解し，教訓とし，意識を高めることである．

写真１　「嗚呼九月一日」の碑
（撮影：今村隆正）

５．文献

宇佐美龍夫・石井寿・今村隆正・武村雅之・松浦律子(2013)：日本被害地震総覧 599-2012，東京大学出版会，694p.
地震調査研究推進本部：神奈川県の地震活動の特徴.
今村隆正・北原糸子（2013）：神奈川県域及び山梨県東部の土砂災害，1703 元禄地震報告書，内閣府，286p.
西坂勝人（1926）：神奈川県下の大震火災と警察，警有社，496p.
桝井照蔵（1925）：大震災記念写真帖 大正 12 年 9 月 1 日，神奈川県震災写真帖頒布事務所.